

2022年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2023年 1月 20日

学部・学年 現代社会学部三年

学籍番号

氏名 岡田 鈴

1. プロジェクト名

中京大学オリジナルテキスタイルで作るコラボグッズ

2. 活動期間

2022年 7月 5日 ~ 2023年 1月 31日

3. 主な活動場所

大学、企業

4. 参加者 7名（「7.参加者名簿」に参加者氏名等を入力してください）

5. 予算・使用経費等（足りない場合は各自で列を足してください）

費目	品名・内容	予算金額	執行金額
交通費	交通費	6,880 円	2,880 円
材料費	織物（中京大学オリジナルテキスタイル）	178,750 円	123,750 円
謝金	縫製（サンプル）	30,000 円	30,000 円
謝金・材料費	縫製（縫製、裏地、資材）	638,500 円	485,222 円
材料費	尾州産地タグ、ポスター	0 円	2,068 円
運搬費	材料運搬費	9,500 円	0 円
施設使用料	出展料	5,000 円	0 円
	合計	868,630 円	643,920 円

6. プロジェクトの活動報告

◆プロジェクトにおける活動内容と目標

<活動内容>

中京大学をイメージしたオリジナルテキスタイルを作成し、そのオリジナルテキスタイルを使用したグッズを開発しました。

企画立案

中京大学のオリジナルグッズは多くの種類があります。多くの種類がある中で、「新しく何を作るか」を考えたとき、今までになかったショルダーバッグを作成することにしました。ショルダーバッグにも様々ありますが、中京大学オリジナルということで、生地とバッグの仕様にこだわり、作成します。男女問わず、全ての世代が使うことのできるグッズ制作を目指しました。

中京大学オリジナルテキスタイルのデザインと制作

中京大学をイメージしたオリジナルテキスタイルを制作します。尾州産地という愛知県の毛織物産地にて、中京大学をイメージということで、スクールカラーである青・赤・白の糸を使用し、チェック柄の生地を作ります。西川毛織株式会社担当者様と対面、オンラインにて打ち合わせを行いました。

ショルダーバッグのデザイン

作成するショルダーバッグのデザインをします。形、サイズ、ポケット等の仕様について検討します。身近にある筆箱やポーチを用い、どのようなグッズを作るかイメージを膨らませ、アイディールカンパニー担当者様と何度も打ち合わせを実施しました。

中京大学の大学祭での販売

中京大学祭豊田実行委員会に所属していたこともあり、大学祭での販売をしたいと考えていました。コロナ禍の影響で、3年ぶりの開催となった「第29回中京大学とよた祭」にて販売をするため、グッズの梱包、お店の準備等、様々な準備を行いました。

2023年度チャレンジ奨励金プロジェクト説明会への参加

次年度 2023 年度のチャレンジ奨励金プロジェクト説明会にて、報告者として出席しました。PowerPoint を使用し、2022 年度の私たちの活動を報告しました。

<目標>

中京大学をイメージしたオリジナルテキスタイルを開発すること

中京大学オリジナルテキスタイルを使用したグッズを開発すること

開発したグッズを販売すること

愛知県の産業のPR：地場産業発展の力になること

中京大学のPR：他大学へアピールすること、学生のチャレンジ精神を向上させること

次の商品開発につなげること

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

< 中間報告時に抱えていた課題 >

販売について

中京大学サービス株式会社のご協力により、販売をすることになった。会計の方法を学び、販売場所に掲示するポスターとグッズをお渡しする際の御礼状の作成に取り掛かる必要がある。

広報について

グッズを作ることに必死になり、他のことが手についていなかった。

< 対応結果 >

販売について

会計の方法を学び、PowerPoint でポスター、御礼状を作成することができた。大学祭では、目立つように販売することができた。

広報について

中京大学専用 SNS 「TUNAG」を使用し、投稿をしたが、広報については足りなかったと感じている。いくつか投稿したい内容があったが、投稿ができなかった。

◆プロジェクトの目標達成状況（活動内容等を具体的に記入してください）

< 達成状況 >

中京大学をイメージしたオリジナルテキスタイルを開発すること

中京大学には、3色のスクールカラーがあります。紡毛、ツイードの赤・青・白の3色の糸を使用したチェック柄の生地を作成しました。3色の糸を使用することを必須とし、普段使いできるようなお洒落な生地を目指しました。西川毛織株式会社にて打ち合わせを行い、多くの生地見本を見させていただきました。対面にて打ち合わせをし、メールで生地のCGデータを見ながら生地のデザインを検討し、発注しました。「生地が織られているところが見たい」という私の要望を聞き入れてくださった西川毛織株式会社の担当者様のおかげで、尾州産地（愛知県の有名な毛織物産地）の工場視察に伺いました。オリジナルテキスタイルを作ることに憧れていたため、完全オリジナルの中京大学の生地が完成したときは、大変嬉しく思いました。

中京大学オリジナルテキスタイルを使用したグッズを開発すること

ショルダーバッグのデザインに取り組みました。アイディールカンパニーの担当者様と打ち合わせを重ねて、仕様にこだわったショルダーバッグをデザインしました。ショルダーバッグは、形だけでなく、ポケット、ファスナー、ベルトまで決めることは多くありません。服飾の知識は持っていましたが、バッグを1から作る経験はなかったため、聞いたことがない言葉も多く大変でした。仕様が全て決まった後、アイディールカンパニーの縫製工場にて大量生産され、99点のショルダーバッグが中京大学へ届きました。

開発したグッズを販売すること

中京大学へショルダーバッグが納品され、販売に向けて準備を開始しました。届いた99点を袋に入れ、梱包しました。また、広報用に写真撮影を行いました。

中京大学サービス株式会社のご協力で大学祭での販売ができるようになりました。大学祭で構えるお店に立て看板やポスターを置く等アドバイスをいただき、ポスターの作成に取り掛かりました。中京大学豊田キャンパスで開催された「第29回中京大学とよた祭」

にて、販売分を全て売り切ることができました。販売時、お店に立ち寄ってくださったお客様に話しかけ、ショルダーバッグの特長について詳しく説明しました。お客様から、「かわいい！おしゃれ！」とグッズの見た目についての言葉だけでなく、「産業の発展に貢献してくれて、うれしい。」という活動に対しての言葉をいただくことができました。一方で、40, 50 代の方より、「中京大学のロゴや文字が付いているタオルとかバッグはないのか？」という声がありました。「中京大学らしさ」があふれるグッズも必要であると思いました。

販売後、グッズの使用者である学生へ Google form のアンケートにご協力いただきました。

①グッズの良い点

「デザインの主張が激しくなく、いろんな服装に合わせることができる」、「大容量で、持ち運びもしやすい。」という商品開発でこだわった点を良いと感じてくれている声がありました。

②グッズの改善点

「内ポケットが小分けになっていると、細かいものが入れやすいと思った。」、「もう少し大きくても良い。」「ファスナーの開閉音が大きい。」という声をいただきました。私自身気にしていなかったところに、着目をしてくださり、次の商品開発に改善できる部分はしたいと思います。

③中京大学っぽくないグッズについて

「普段使いできるが、中京大学らしさがあるかと言われたら無い。」、「中京大学っぽくないからこそその使いやすさがある。」「商品説明があったため、気にならなかった。」という「中京大学らしさ」はないものの、「使いやすい」という声がありました。

④今後、欲しいグッズ

「手帳、ボールペン、ポーチなど日常使いできるもの」という回答がありました。また、「見るからに中京大学のグッズ」と「よく見たら中京大学のグッズ」と「中京大学に見えないグッズ」の3つの内どれが欲しいかの質問について、「よく見たら中京大学のグッズ」が欲しいと回答する人が多かったため、前面に中京大学を押し出すのではなく、中京大学のロゴやタグがついているものを次年度に取り入れたいと考えました。

愛知県の産業のPR：地場産業発展の力になること

愛知県尾張西部エリアと岐阜県西濃エリアは「尾州」と呼ばれている。日本最大の毛織物産地と言われ、毛織物の国内生産量約8割を誇る。国内は勿論海外のハイブランドも尾州産地の毛織物を採用するなど、高い評価を得ています。しかし、後継者不足による問題があります。尾州産地をより多くの人に知ってもらい、尾州産地を持続可能な産地とするために何かできないかと考えました。そこで、中京大学オリジナルグッズに尾州産地の生地を使用することを決めました。中京大学オリジナルグッズに使用することで、尾州産地の魅力がより多くの人に発信できればと思いました。

生地を使用することの他に、もう1つ取り組んだことがあります。尾州産地の紙タグを付けたことです。「尾州」の良さを知ってもらい、分かってもらうために、「BISHU」マークが作られました。紙タグ、布のピスネームがあり、認証を得た生地やそれを使用した製品に「BISHU」マークを付けることができます。

中京大学の PR：他大学へアピールすること、学生のチャレンジ精神を向上させること

他大学へのアピールはすることはできなかった。学生のチャレンジ精神を向上させることについては、取り組んだことがある。2023 年度のチャレンジ奨励金プロジェクト説明会にて、2022 年度プロジェクト採択者として活動報告を実施しました。プロジェクトの一連の流れから、プロジェクトを通して得たこと、学んだことを説明会出席者に説明しました。貴重な経験の機会を、多くの学生に手にして欲しいと考えています。後輩にも今回のプロジェクトについて積極的に話すようにしていました。

次の商品開発につなげること

次の商品開発につなげるため、グッズ販売時にアンケートを実施してきました。また、どのようなプロジェクトを進めてきたか、後輩に伝えてきました。商品開発に興味のある後輩と新しいプロジェクトチームを組み、次年度に向けた打ち合わせも行いました。

自己評価による達成度：70%

◆改善点、やり残したこと

今回のプロジェクトの改善点は、スケジュール管理です。テキスタイルの制作までは順調に進みましたが、ショルダーバッグの縫製に時間がかかってしまいました。大学祭に間に合うように、大学祭前の 1 か月はアイディールカンパニーの担当者様と週に 2.3 回打ち合わせを行いました。納品日を 3 週間早め、アイディールカンパニーのご協力により、間に合わせることができました。打ち合わせを早めの段階から行う必要がありました。

やり残したことは、広報や FDC（一宮地場産業ファッションデザインセンター）へ取り組みを伝えることです。広報は中京大学専用 SNS や自身の SNS を使用しようと思いましたが、手をつけることができませんでした。高校生の頃から FDC と少しだけ関わりがありました。そのため、活動を報告したいと考えておりましたが、こちらも手をつけることができませんでした。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気付きを得たか

今回のプロジェクトを実施し、私は商品開発の一連の流れを経験しました。今回のプロジェクトで、商品開発は大変ですが、達成感を大きく感じることができました。一人ではできないことが多く、多くの人のご協力を得て、1 つの商品を作ることができます。複数の会社と打ち合わせするときは、どちらか一方に偏らず、並行して連絡を取り合うことを大事にしました。スケジュールはやることを詰め込むのではなく、1 週間、1 か月単位で目標を決めること、納品日から逆算することが必要だと感じました。

◆今後チャレンジしていきたいこと

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

今後私は、得意なことも、苦手なことも、新しいことに何事もチャレンジしたいと思っています。次年度に向けて、後輩と組んだプロジェクトチームで今年度の反省を生かし、新しい商品開発を進めていきたいと考えています。大学最後の1年となり、自分が先導するのではなく、支える立場となり、持続できる商品開発チームを作っていきたいです。卒業後は、スーツ業界にて商品開発等に携わりたいと考えています。この貴重な経験を活かし、積極的に行動したいと思っています。

高校生から今にかけて、様々なことにチャレンジをし、苦手なことも継続して行うことで得意なことになりました。これからも努力をし続けたいと思います。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。



ショルダーバッグ完成品



尾州産地紙タグ



尾州産地へ工場視察



販売場所に設置した立て看板

中京大生商品開発プロジェクト

CHUKYO オリジナルテキスタイルショルダーバッグ

中京大学チャレンジ奨励金制度を利用し、中京大学オリジナルグッズを制作することができました。プロジェクトメンバー一同、今までに見たことないお洒落なグッズを目指してきました。今回、制作したグッズを皆様にお見せすることができ、嬉しく思います。思いが込められたグッズの紹介をご覧ください。

商品開発初挑戦

デザイン性と機能性に優れた商品を1から開発したいという思いから、このプロジェクトは始まりました。商品企画、デザイン、制作、販売を通じ、私共が開発した商品が多くの方々の手に渡ってほしいと考えています。

目的 I 愛知県の産業のPR

今回、毛織物を西川毛織株式会社さん、縫製をアイディールカンパニーさんにお任せしました。愛知県内の企業にご協力いただいたこのグッズは、愛知県の産業をPRすることにつながっています。

目的 II 中京大学のPR

中京大学がファッションという新しい分野に挑戦していることをアピールすることができます。中京大学、特に私共が通っている豊田キャンパスはスポーツのイメージが強いと思います。スポーツ以外の魅力をアピールし、中京大学と他大学の差別化を図りたいと考えました。



COLLAR
SIZE
W26 × H20 × D8

↑「CHUKYO オリジナルテキスタイルショルダーバッグ」

尾州産地の毛織物を使用した高級感のあるバッグ
スライダー（引手）は2つで左右両方から開閉可能
裏地付き、肩紐付き（取り外し可能）
外側と内側両方にポケットあり

愛知県長久手市にある株式会社アイディールカンパニーさんにご協力でのグッズは生み出されました。細部までこだわったバッグを様々な用途でお使いください。



尾州産地の毛織物を使用

愛知県尾張西部エリアから岐阜県西濃エリアに位置している尾州産地

日本最大の毛織物産地と知られ、国内生産量の8割を占めており、世界の有名ブランドの製品にも採用されています。高品質を生み出す尾州産地で織られた毛織物をバッグに使用しました。

「BISHU」認証

西川毛織株式会社さんのご協力により、尾州産地の毛織物であることの認証を受けることができました。

「CHUKYO オリジナルテキスタイルショルダーバッグ」は、中京大学のグッズであり、「BISHU」のグッズでもあるのです。

←毛織物を生み出してくれた尾州産地の匠と写真を撮りました。



BISHU
JAPAN

素材を楽しむ尾州

多くの方々のご支援とご協力をいただき、バッグを完成させることができました。心より感謝申し上げます。1から作り上げた今までに見たことのない中京大学オリジナルグッズ「CHUKYO オリジナルテキスタイルショルダーバッグ」をどうぞお使いください。

代表：岡田 鈴 堀野 寿奈
伏見 諒 岡田 飛鳥
小宮 健太郎 勝田 健太
加藤 龍之介 田中 崇快

IWASAKI GROUP
IWA COMPANY COOPERATION FACTORY



1919 HISHIKAWA



BISHU.

販売時に掲示したポスター